

本日はご多忙の中、彦根高商創立百周年の記念式典にご臨席くださり、まことにありがとうございます。木々も色づき始め、天高く馬肥ゆる秋の良き日に、この歴史ある講堂で記念式典が開催できることを、大変喜んでおります。また百周年事業の成功のためにご尽力をいただきました多くの方々、特に彦根キャンパスの同窓会である陵水会の方々には、百周年事業の先頭に立っていただき、大変お世話になりました。

彦根高商開校以来、このキャンパスからは多くの有為な人材、特に経済界で活躍する人材が輩出されてまいりました。滋賀大学の標語として「湖国から世界へ」というキャッチフレーズを用いているのですが、歴史と自然、お城と湖、に恵まれたこの美しいキャンパスで青春を過ごし、大志を抱いて多くの学生が世界に飛び出していきました。そのような卒業生が、青春を過ごした母校を懐かしみ、本日も大勢参加していただいております。キャンパスに来られて、建物もかなり変わったなと感じられると思いますが、この講堂と陵水会館は高商開校当時の雰囲気を残しています。どちらも、最近耐震工事をおこないましたが、外観のみならず内装も当時の雰囲気を残すことができました。100年近く前の木造建築物の残る国立大学は非常に少ないと思います。

100年前に彦根に高等商業学校ができたのは、近江商人の伝統も大きかったからだと思います。当時は大変熱心な誘致活動がおこなわれましたが、この彦根こそ近江商人の伝統を受け継ぐ実学を学ぶ高等商業学校にふさわしいと考えられたのだと思います。近江商人はこの地から『三方よし』の経営理念をもって全国に事業を展開していきました。それが滋賀大学の「湖国から世界へ」という標語に受け継がれています。

このように輝かしい歴史をほこる彦根キャンパスですが、今日の式典は、これまでの歩みを記念するにとどまらず、これからの百年の更なる発展の節目にしたいと考えております。滋賀大学では6年前に経済学部情報管理学科を独立させる形で日本初のデータサイエンス学部を開設しました。幸い社会の強いニーズにこたえる形で、データサイエンス学部は日本をリードする形で発展してきました。また経済学部では、来年4月にこれも日本初となる大学院経営分析学専攻を開設します。経営分析学は経営学とデータサイエンスを掛けあわせた新しい分野で、デジタルトランスフォーメーションが求められる現代のビジネスマンが最も必要としている分野です。変化の激しい時代の中で、社会人のリスクリングも大学の重要な役割であり、このキャンパスを社会との共創(ともに作る)によるイノベーションの場にしていきたいと考えております。3年間のコロナ禍という困難な時期を乗り越え、キャンパスに活気が戻っています。今後ともこの滋賀大学を発展させていきたいと考えております。皆様方のご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。以上で私からのご挨拶とさせていただきます。

令和5年11月4日

滋賀大学学長 竹村彰通